

皇海山・袈裟丸山縦走報告

2010 年 4 月 24 日(土)25 日(日)

M4 只左一也

0 日目：浅草駅→(東武・わたらせ渓谷鉄道)→
→間藤駅(駅で仮眠)

1 日目：間藤駅→松木溪谷→国境平→皇海山→
→不動沢のコル手前(幕営：C1)

2 日目：C1→鋸山→六林班峠→袈裟丸山→
→小丸山→(塔の沢コース)→登山口→
→(林道歩き)→沢入駅1km手前→
→(通りがかりの車)→東武線赤城駅

1 日目 (4 月 24 日(土))

起床	03:00	
幕営地		05:10 発
不動沢のコル	05:20 着/発	
鋸山	06:00 着	06:10 発
六林班峠	07:10 着	07:20 発
奥袈裟	09:50 着/発	
袈裟丸山	11:45 着	12:00 発
前袈裟丸山	12:45 着	13:00 発
小丸山	14:00 着	14:15 発
賽ノ河原	15:00 着/発	
寝釈迦像	15:40 着	15:45 発
塔ノ沢登山口	16:30 着	16:35 発
(林道を歩いていたら、17:10 頃、通りがかりの車が乗せてくれた)		
東武赤城駅	18:10 着	
東武線経由で東武浅草駅へ		
(歩行時間：約 10 時間)		

早朝 3 時に起床すると外は満天の星。食事を済ませ、支度をして 5 時過ぎに出発。西の赤城山が赤く焼けてきた。

不動沢のコルまで 10 分ほど下り、鋸山のピークまで登り返す。鋸山の頂上直下の急斜面を登り、好展望

の山頂に到着。霞んではいるものの、富士山や北アルプス、南アルプスまで見える。

この日の行程は大変長く、わたらせ渓谷鉄道の電車の本数も少ないので、あまりゆっくりしてられない。

しばらく痩せた尾根を進むと、次第に尾根が広くなって、ダケカンバとシラビソの混合林が見事な六林班峠に到着。すばらしく雰囲気の良いところで、テントを張ってのんびり過ごすにはいい場所である。計画ではここで幕営するつもりだった。

ここから庚申山荘の方へ下る道が分岐している。ここまでのペースが遅かったら、この道からエスケープしようと思っていたが、なんとか計画通り袈裟丸を縦走できそうである。縦走路をそのまま進む。

六林班峠から 500m ほど南へ進むと尾根が直角に西へ折れ曲がるのだが、マークを見失ってしまい、しかも尾根が広くてその場所が分かりにくく、かなり行き過ぎてしまった。

その先は、マークを忠実に辿る。このあたりは標高が低いので、例年この時期は雪が少ないようだが、今年は雪が結構多かった。しばらく気温の低い状態が続いているおかげで雪が締まっていて、アイゼンをつけると歩きやすい。

法師山のなだらかなピークを過ぎ、奥袈裟丸の登りになると尾根が急に細くなり、藪が濃くなって歩きにくくなる。東側が切り立って絶壁になっているので、雪が中途半端に登山道に積もっていると迂回して藪の中を歩かなければならず、ペースが下がってしまう。この一帯の樹林は見事で、原始的な雰囲気が漂っている。奥秩父に少し似た雰囲気を感じるが、奥秩父よりも山深い感じがする。

藪尾根のアップダウンを繰り返して、袈裟丸最高地点(1961m)、奥袈裟丸(1958m)、中袈裟丸とピークを越え、六林班峠から 4 時間半で袈裟丸山(1908m)に到着。登山客が 3 人休んでいた。昨日、間藤駅を出発して以来、初めて出会った人だった。(ここまでは、トレースも全くなかった。)

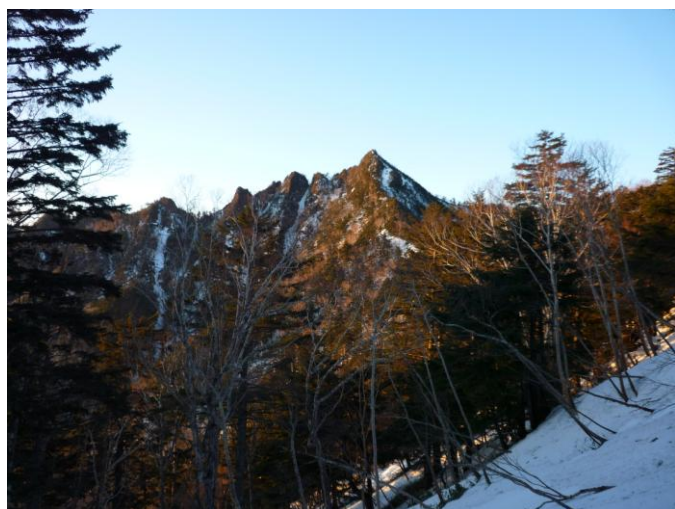
あまり時間に余裕がないので、山頂で少し休憩して、すぐに出発。前袈裟丸山は手軽に登ることができるので、なかなかの賑わいだった。袈裟丸山までの静寂が嘘のようだった。しかも、山頂は人の多さのためか草木が禿げて土がむき出しになってしまい、風情が全くない。アイゼンを外してすぐに出発。

急坂を下るとダケカンバ林と笹の下草の、なかなか雰囲気の良い道となる。かまぼこ型の避難小屋から少し登り返すと、見晴らしのよい小丸山のピークに到着。眺めが良かったし、人もいなかったのでゆっくりしたかったが、乗る予定の電車に間に合わせるには余裕がなくなってきたので、少し休んですぐに出発。この先はなだらかな広い尾根を下り、賽の河原呼ばれる、石がゴロゴロした不思議な場所から塔の沢の谷筋に下る。1時間近く下り、自然の岩を削って造られた寝釈迦像のところで、この像を見にわざわざ下から登ってきた地元の3人とすれ違う。この寝釈迦像の由来は諸説あるが、よく分からないようである。

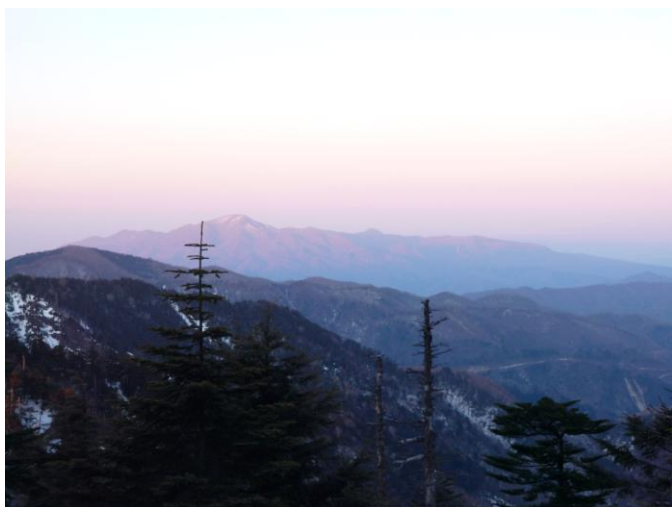
電車の時間が厳しくなってきたので、ペースを上げて下り、登山口で舗装道路になったので急いで登山靴からジョギングシューズに履き替え(登山靴で舗装道路を歩くと足を痛めるので)、休まずに車道を下る。わたらせ渓谷鉄道沢入(そうり)駅を目指して、かなり急いで歩き、駅まであと1kmほどになったところで、後ろから下ってきた車が私を追い越したすぐ先で止まった。運転手が出てきて、乗って行かないか、と言ってくれた。電車に間に合うかどうか厳しい状況だったので、お言葉に甘えて乗せて頂いた。この周辺の見どころを観光していた地元の4人家族で、わたらせ渓谷の駅ではなく、その先の東武赤城駅まで乗って行くように勧めて下さるので、ご厚意に甘えることにした。赤城駅で降ろしてもらい、東武線で東京に戻った。



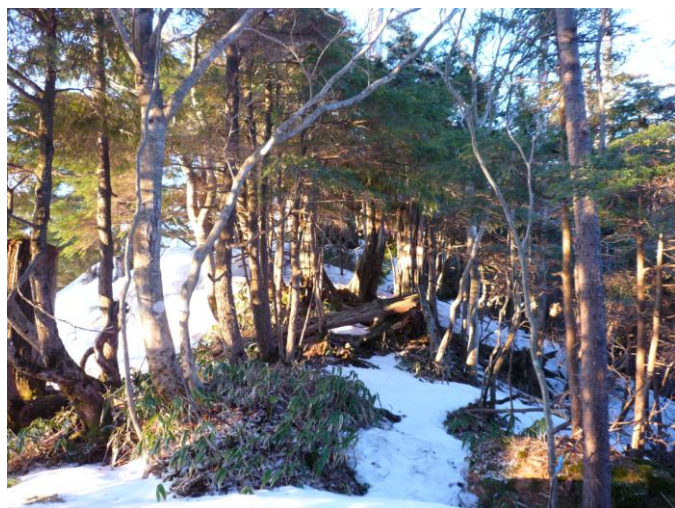
不動沢のコル

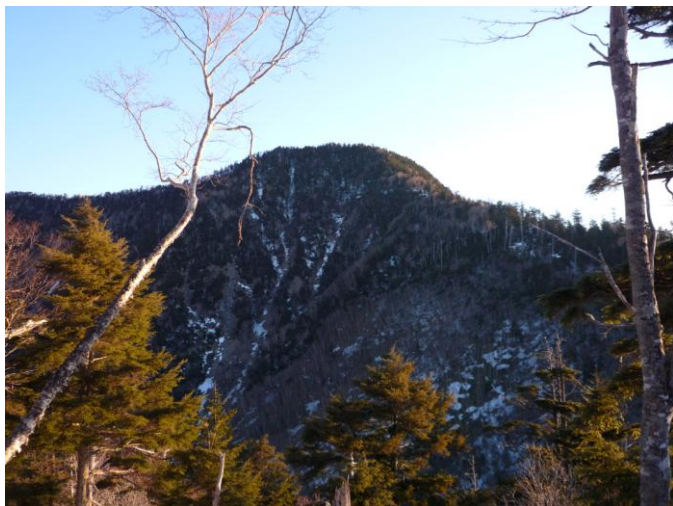


これから登る鋸山



赤城山

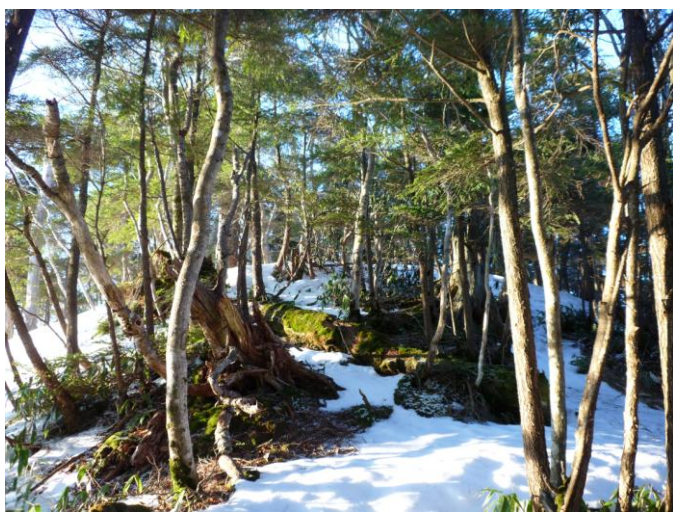




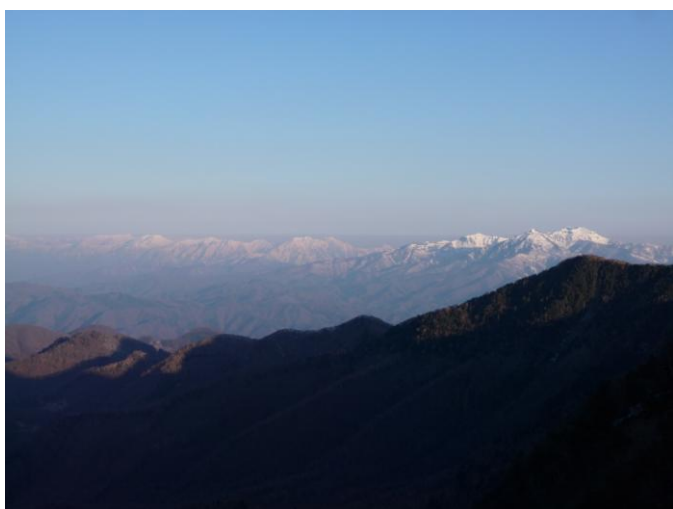
皇海山を振り返る



鋸岳の登り。



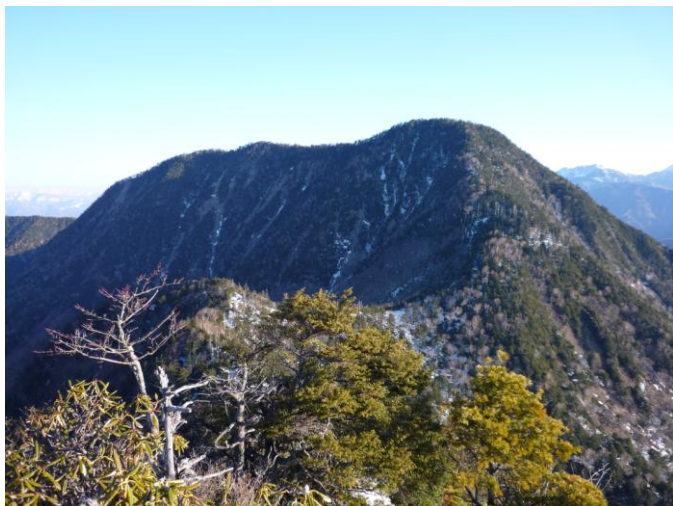
鋸山山頂直下はかなりの急坂。



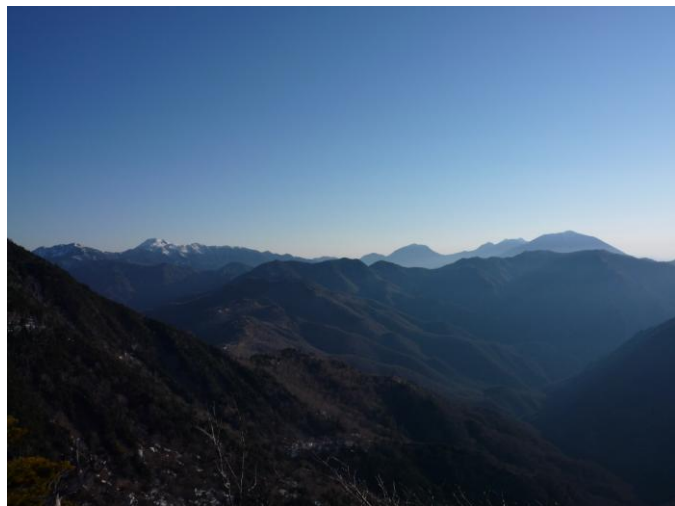
北の眺め。右端は武尊岳。



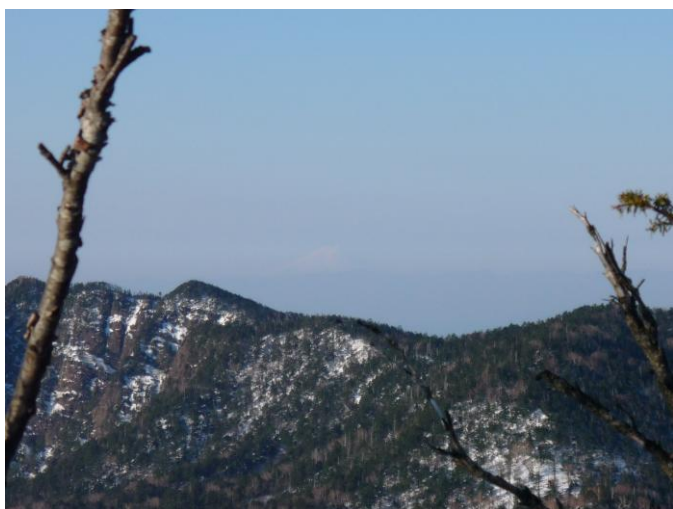
鋸山山頂。



鋸山山頂から皇海山を振り返る。



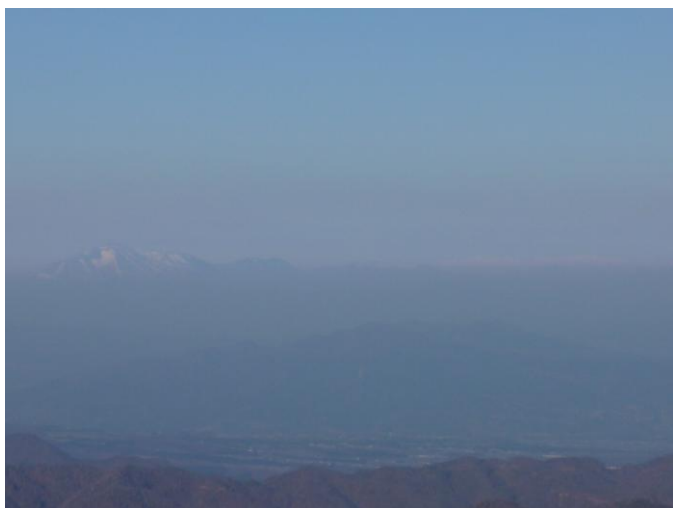
左端は日光白根山、右端は男体山。



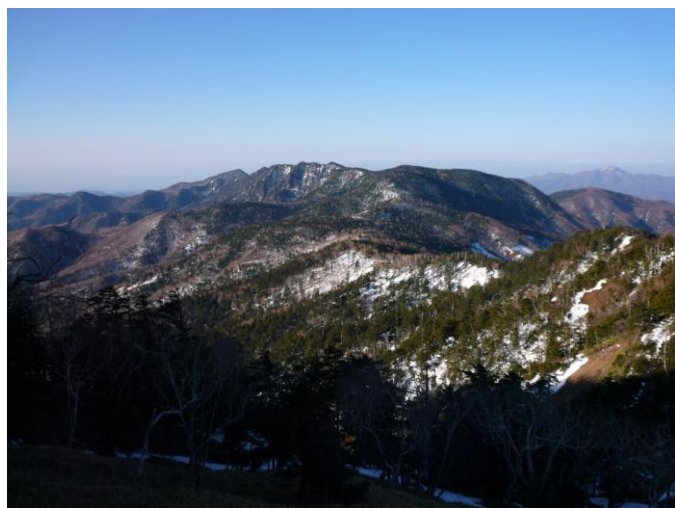
遠く 富士山がかすかに見える(中央)。



庚申山方面の眺め。



浅間山(左)と北アルプス(右)



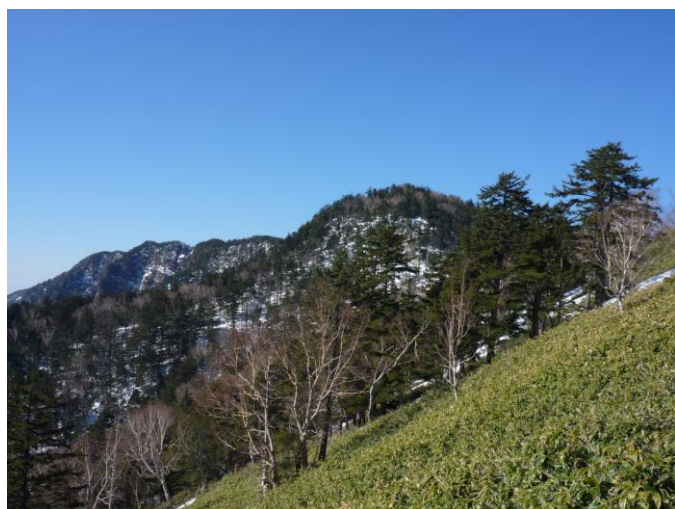
袈裟丸に続く尾根。中央が袈裟丸の山々。



六林班峠。

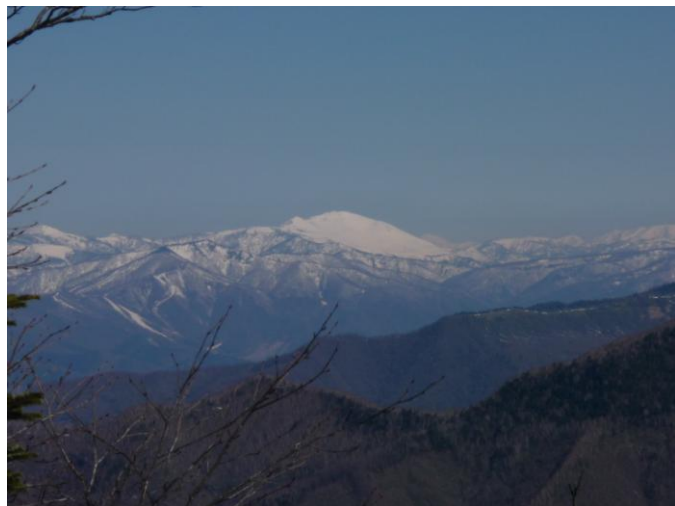


六林班峠付近は気持ちの良い樹林帯。



袈裟丸山方面。

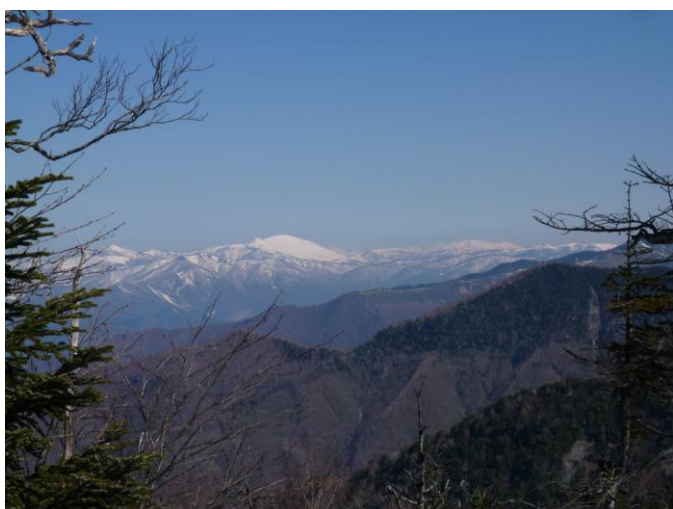




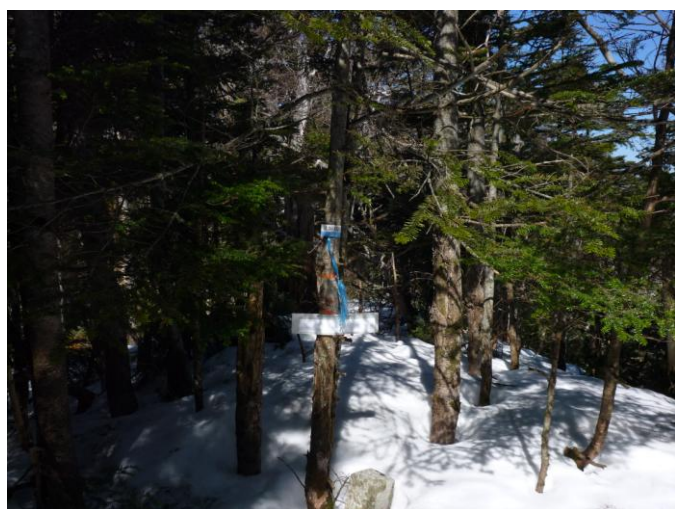
至仏山。



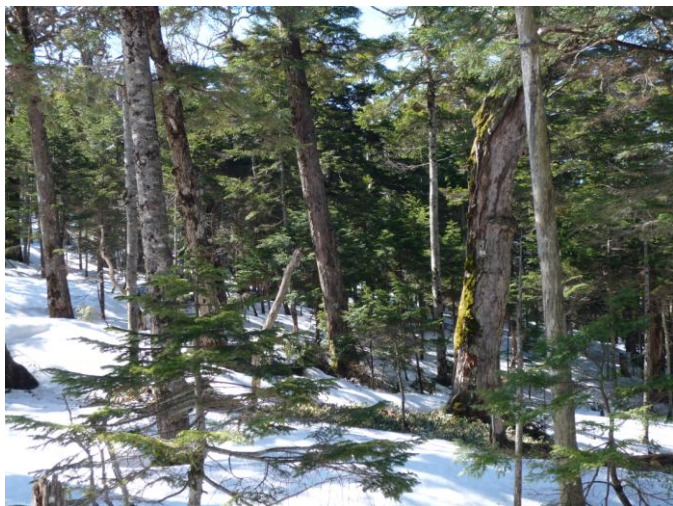
燧ヶ岳。



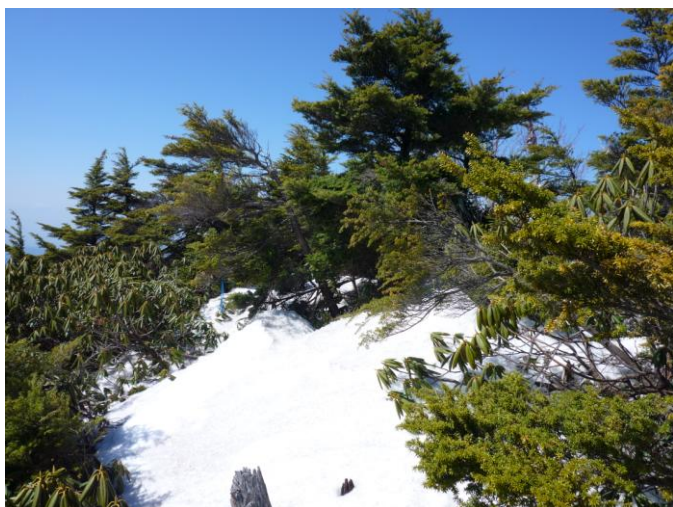
中央の真っ白い山は至仏山。右のなだらかな山は平ヶ岳。



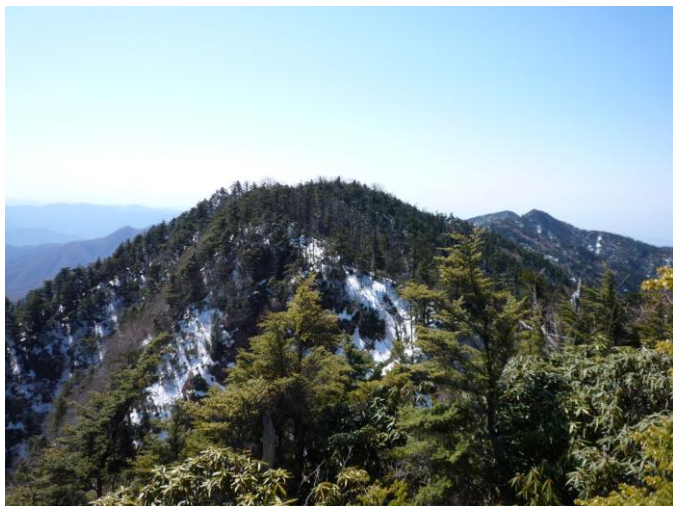
法師山山頂。



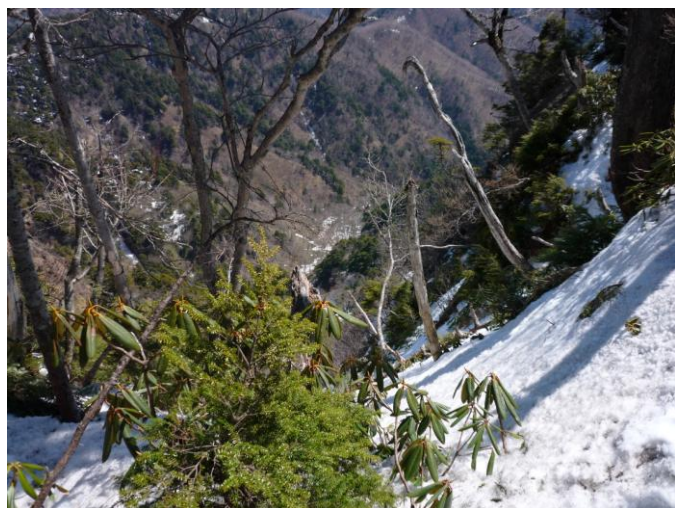
袈裟丸の最高地点には名前が付いていない。



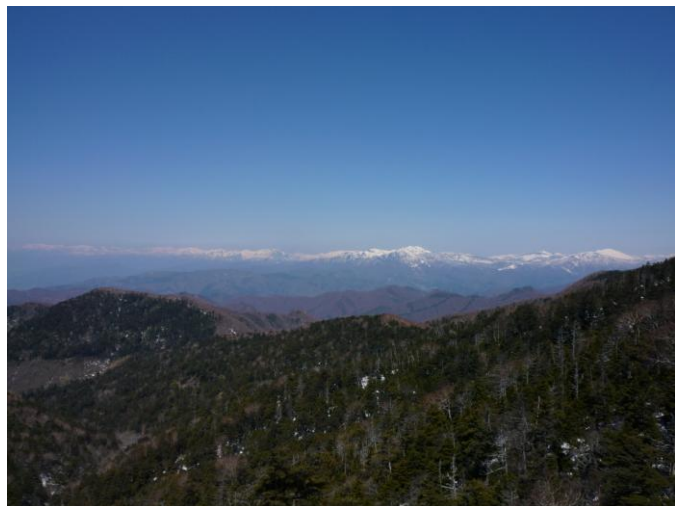
狭い尾根の上を藪こぎして進む。



奥袈裟丸山



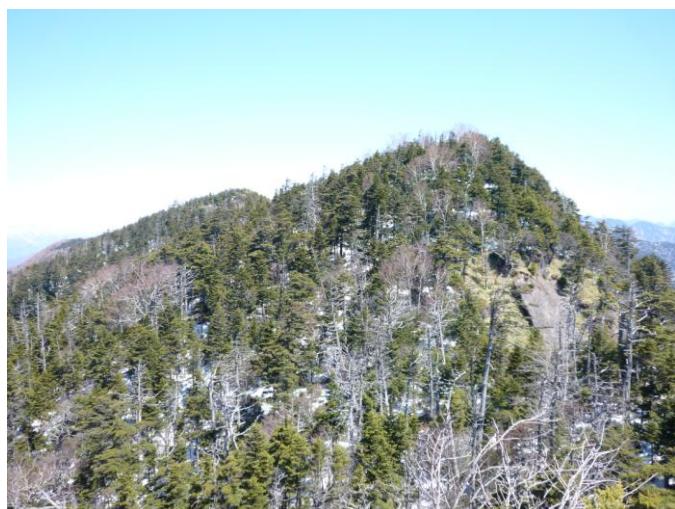
尾根の東側は切れ落ちている。



北の眺め。右端は至仏山、中央やや右は武尊岳。



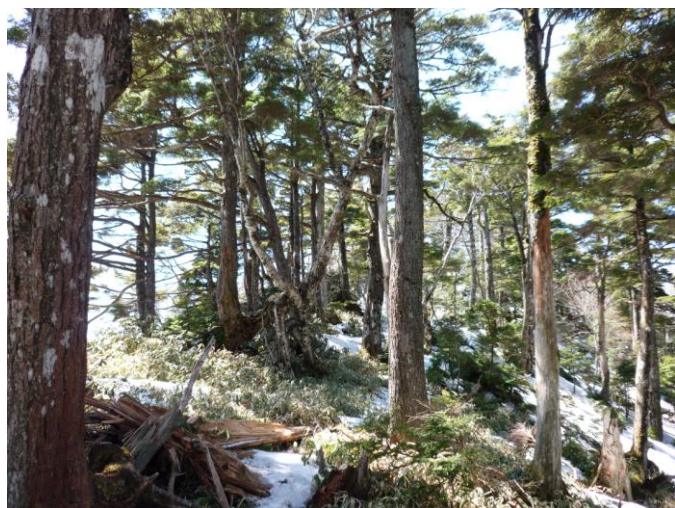
奥袈裟丸(1958m)。



中袈裟丸

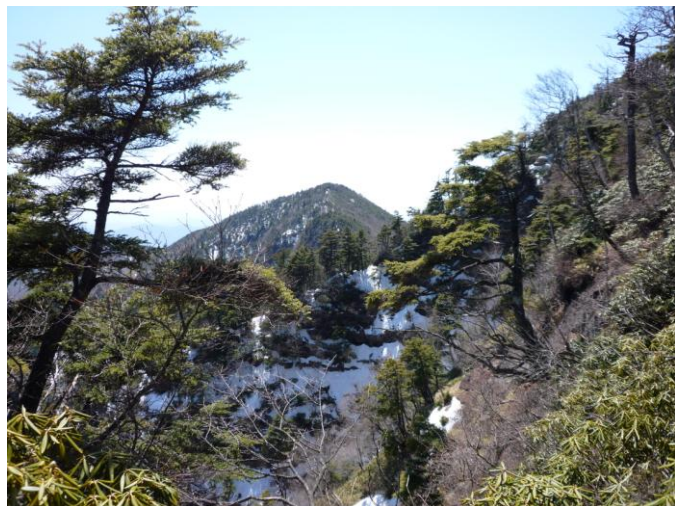


奥袈裟丸のピークを振り返る。

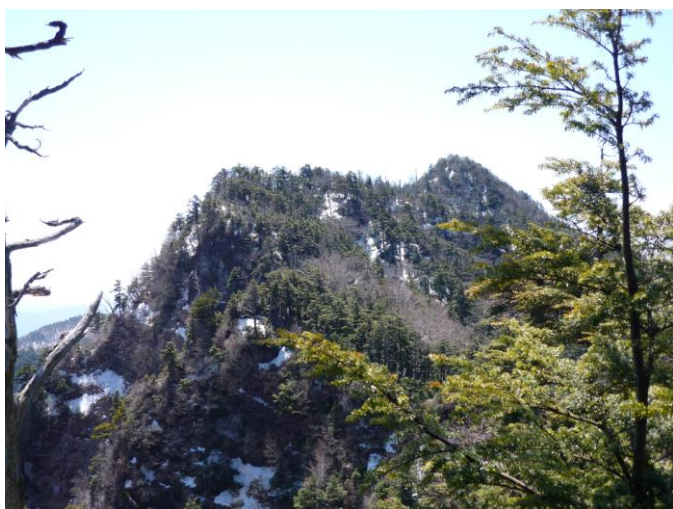




中袈裟丸のピーク



前袈裟丸山

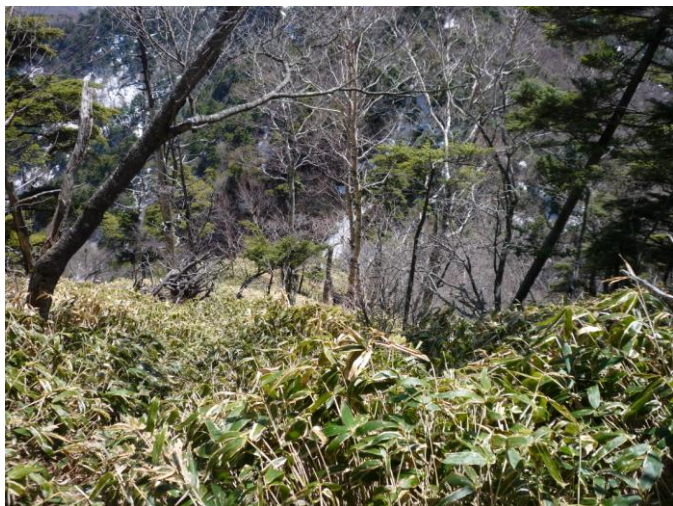


袈裟丸山

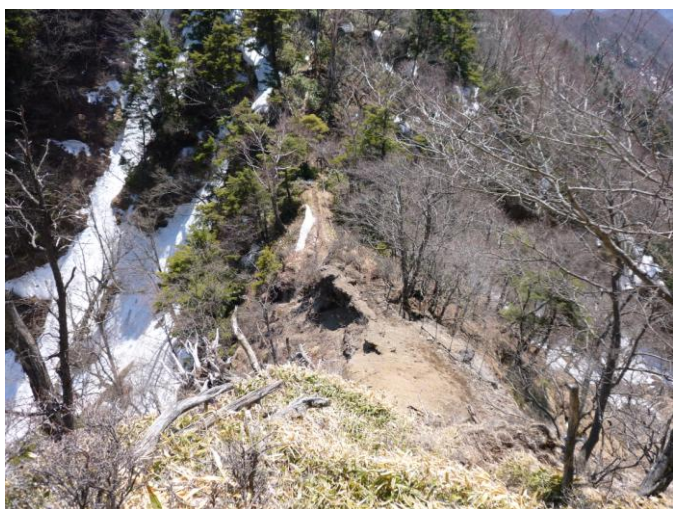
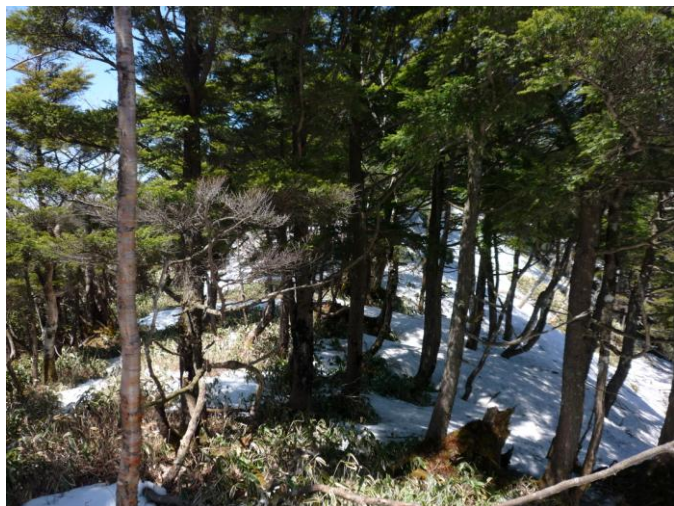


袈裟丸山の山頂に到着。この縦走で、初めて人に出会った。

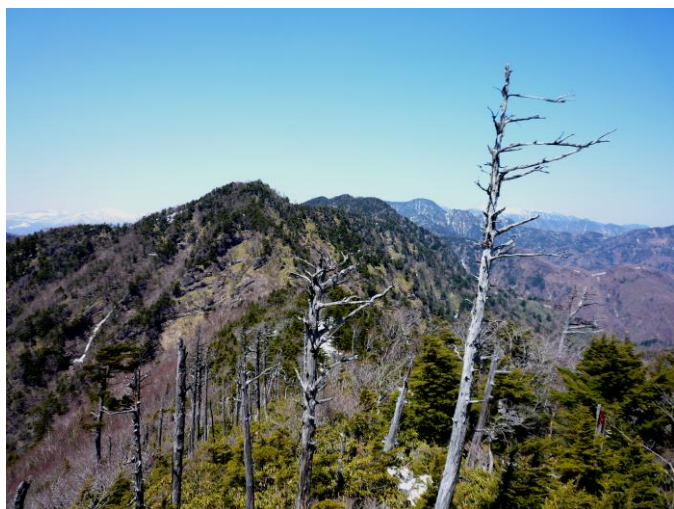




袈裟丸からの下り。



八反張と呼ばれる、袈裟丸と前袈裟丸の間のコル。



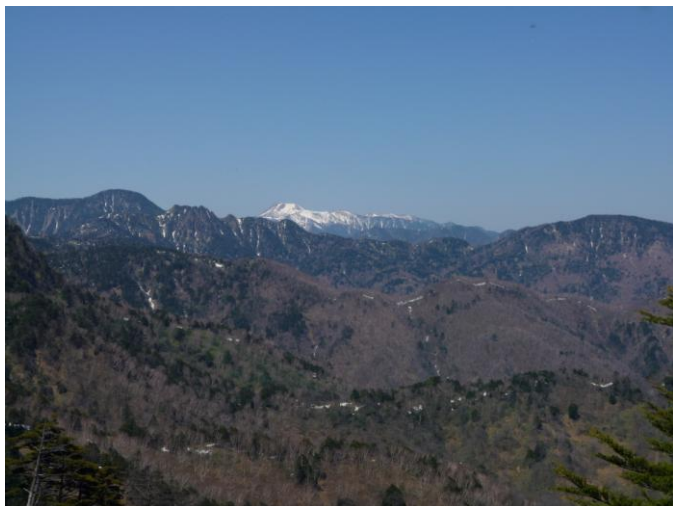
後を振り返る。左から袈裟丸山、奥袈裟丸、中央やや右の遠くの山は皇海山、その右の白い山は日光白根山。



前袈裟丸山



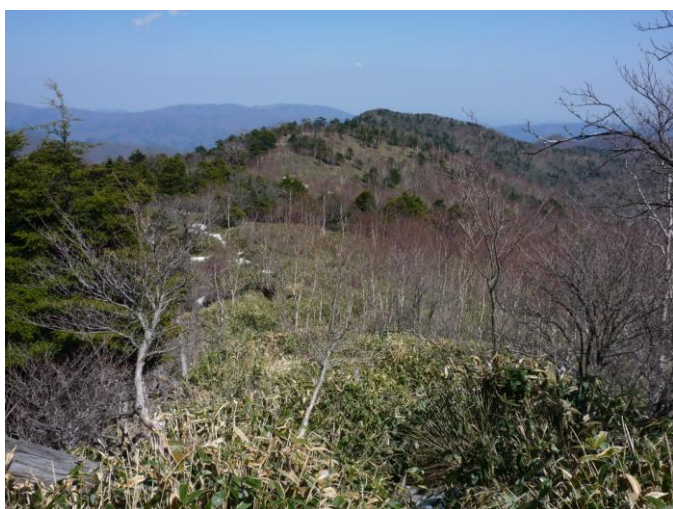
禿げた前袈裟丸山の山頂。人が多い。



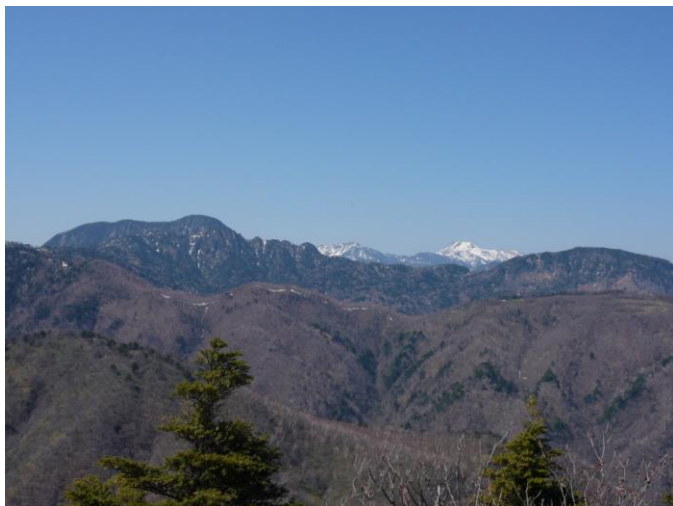
皇海山(左端)と日光白根山(中央)



避難小屋



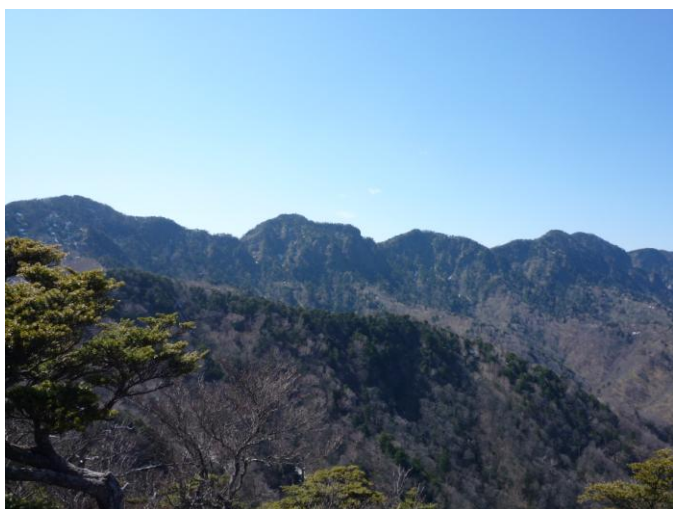
小丸山



皇海山と日光白根山



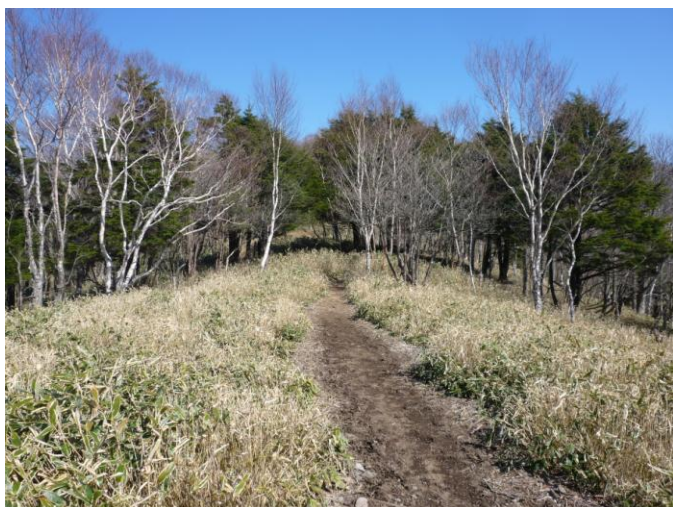
賽ノ河原



袈裟丸の山々。左から、前袈裟丸、袈裟丸、中袈裟丸、奥袈裟丸と最高地点。



塔の沢の避難小屋

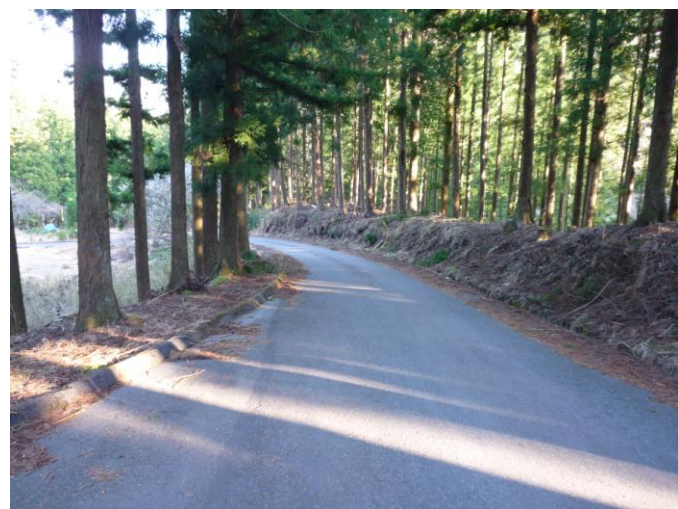




塔の沢登山口



寝釈迦像



車道を歩いていたら、通りがかりの車が東武赤城駅まで乗せてくれた。

